



特集テーマ

色と脳の不思議



脳が活性化している証拠

「このボールとあのボールは違って見える！赤いボールっていうの？この色が赤なんだ！」
色がわかると大きな進歩。世界がぐっと変わります。「この色は何色だろう？」と脳が俄然動き出します。色の判別は幼児にとって大変難しいのですが、認知能力獲得からすると大事なことです。



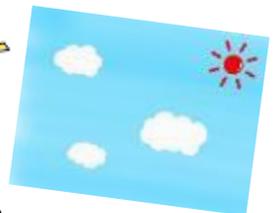
色認識を通して育つ力

①感性が豊かになる

自分の感覚を色で表現できる感性を養うことができます。幼児期に見たり、聞いたり、触ったりしたことが心の内面に深く刷り込まれ、深い部分に影響していく為、人間性も個性も生活も豊かになっていきます。

②多角な視野・洞察力が育つ

幼児期に多くの色を見て育った子は物の微かな違いを観察することが得意になります。例えば、年長児に「空の絵を描く」活動を行った場合に、雲を描き、水色や青、白を使って空を塗ります。空を多角的に見ることができるのです。



物事を多角的にみることができる能力は、洞察力にも繋がります。色彩感覚を育てることで、問題を解決する時や相手の気持ちを汲む時、別の方法を探す時などに必要な貴重な洞察力が育ちます。